

## 白馬鑓温泉・大出原山スキー報告

【山城】長野県・白馬鑓岳

【日時と天候】2017年5月14日（日）晴れ・ほぼ無風

【メンバー】CL 菊池・薄井・滝本・池田（元会員）・鈴木卓（元会員）

【行程】

13日夕方千葉発（薄井家 17:55）－（22:50）サンサンパーク白馬（テント泊）

14日猿倉駐車場（1230m）5:45－小日向コル（1824m）－湯ノ入沢源頭部（1570m）

－白馬鑓温泉－大出原（2450m）－白馬鑓温泉（入浴）－湯ノ入沢源頭部（1570m）

－小日向コル－長走沢－登山道－15:37 猿倉－温泉－帰葉



- ・1泊2日で1日目に鍋倉山の新緑ブナと森太郎を愛でるツアーを計画したが、悪天で中止、14日は天気図が微妙であったが、北アルプスは「てんきとくらす」でAランクを示しており、信じて決行した。ロングなハードルートのため早いスタートが必須、体調を整えるべく、いつも利用しているサンサンパーク白馬に前泊した。
- ・白馬鑓温泉・大出原は13～14年ほど前に経験している。その2年ほど前のGW、猿倉を

ベースに単独で 1 日目に白馬鑓温泉を狙ったが、小日向コルでルートが分からず（勿論 GPS など持っていなかった）杓子岳の北東尾根 2565m（細い岩稜帯の直前）まで登り上げ 35~40 度の急斜面滑走、長走沢の上部の滑走を行った。この時、残雪期の表層雪崩の怖さを始めて体験した。2 日目は多くの登山者・山スキーヤーに混じって大雪溪から白馬岳山頂間で登頂し、大滑走を楽しめた感動の思い出が蘇ってくる。（2004 年の記録を参照）その 1~2 年後、若手のホープ田村君と小倉笑子さん（ともに元会員）と白馬鑓温泉大出原の山スキーを体験できた。この時には今年ほど残雪が多くなく、湯ノ入沢源頭部までの滑走のイメージはなく（藪がかなり出ていた）、トラバース気味にできるだけ標高を下げないように温泉への登り地点まで進んだ。田村君は体力があり稜線まで登り上げ、直下の急斜面滑走を楽しんだが、我々は 2500m 位まで登り上げての滑走となった。広大雪面が安定した大出原の大斜面の爽快な滑走がいまだに忘れられなく、今回再度、初挑戦の山スキー仲間を誘う原動力となった。

- ・今回で 2 回目の挑戦であるが、GPS トラックを載せた報告がかなりあり、今期は残雪がたっぷり、素晴らしいツアーを期待して臨んだ。小生は 1 回目が 55 才頃、現在 68 才、体力低下が激しいが、日ごろトレーニングを続け、毎週のように山スキー・登山が行える好環境である。省エネ登山（山スキー）のノウハウを工夫・実践しており、前回喘ぎあえぎでへろへろになった思い出があるが、今回は焦らずゆっくりしたペースを持続したことが効を奏して、累計標高差 1700m 余りのハードロングルートをそれほどの疲れを残さず実現でき、今後の山行に大きな自信となった。

- ・ 5 : 20 頃、猿倉駐車場に到着すると既にかかなりの台数が駐車している。駐車場脇からシール登行が可能であるが、スタートして間もなくの林道で 1m ほど雪が切れており、落ち葉の上を通過する箇所があるが、それ以外は繋がっている。鑓温泉への登山道ルートもまだ滑走可能であるが、長走沢滑走を期待し、沢の状態を観察しながら進んだ。



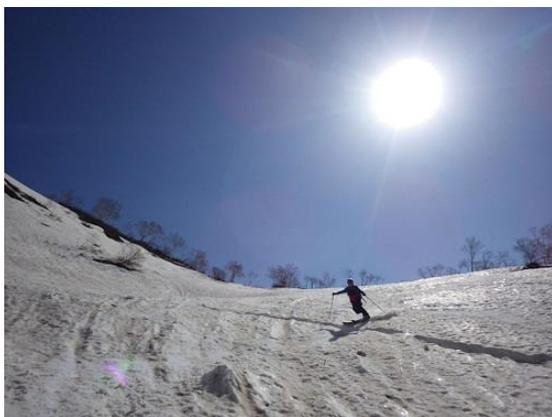
メンバーの一人がシールを忘れ、終始アイゼン登行であったが、小日向のコル・双子岩に向かう急斜面はシール登高ではきつく、全員アイゼンに切り替えゆっくり高度を上げた。

白馬岳の雄姿は素晴らしく、息をのむほどであった。最もつらい登りをクリアし広い2時間15分ほどで（ガイドブックでは2:30、まあまあペースである）コルに到着、眼前に広がるグレートビューを楽しみ、滑走準備をしながらしばし休憩。杓子岳・白馬鑓・唐松岳などの雄大な景色が楽しめた。湯ノ入沢源頭部への広大な斜面は、残雪たっぷりですべて全く問題ない。



- ・白馬鑓温泉山スキーは今回で2回目であるが、前回は小日向のコルから湯ノ入沢方向への滑走は残雪不足で藪も出ており、トラバース気味に進んだが、今回は少し遠回りしても大滑走を楽しまないわけにはいかない。太陽を背に飛び込んだ。途中2~3回ほど停止し、迫りくる温泉方向の大迫力の景色を撮影しながら上質ザラメの爽快な滑走に早くも歓声が上がった。本日の1本目はたっぷり標高差250mほどの、満足の無木立大斜面滑走であった。かなりの山スキーヤーが入っているが、往路で源頭部まで滑りこむグループは殆どない。温泉に向かう距離を短くするためトラバース気味に進むグループが多いが、

残雪たっぷりの広大な斜面がもったいない。ボトムまで滑走しても、標高差で 50m 足らず余分にハイクアップするだけで大した労力ではない。



・ 標高 2050m の温泉に向けてハイクアップを開始した。大勢の山スキーヤーが釜温泉に向かっていった。大迫力の杓子岳岩稜帯を右手に見ながら、メンバーそれぞれのペースで焦らずゆっくりハイクアップ、開放的な雪渓は気分良い。温泉は先着組で賑わっているが、



目的は温泉入浴だけではない。釜温泉エリアの山スキーを楽しむことが主目的、温泉は帰りに楽しもう。温泉より上部に向かうのは三分の一くらいであろうか。大出原に向かって、登山道の左側の沢地形を進んだ。わがパーティをリードするのはいつも元気で健脚のUさんです。



デブリの横を通過、稜線下の急斜面にはフレッシュな浅い表層雪崩跡、滑走しているスキーヤーが豆粒のように見える。ゆっくりザーッと音を立てながら静かに下ってくるホヤホヤの小雪崩も見られる。滑走してきた黒装束のATのテクニシャンが近づいてきた。よく見るとエバ父さんペアのことが多く、2回ほど山中でお会いしたOさんで、少し談笑しました。斜度が増し結構緊張するシール登高の向こうに天狗岩、漸く斜度が緩んできて大出原の大斜面であるが、12時を限度にハイクアップを終了とし、2450m地点から滑走開始とした。滑りやすい上質ザラメにスピードに乗ったターンが刻める。小生も天狗岩をバックに気合のテレターン、鑓温泉直上の大斜面では多くのギャラリーを意識してのロングターンであった。



- ・小生以外のメンバーは積雪期の鍾温泉入浴は初体験、温泉には鳥の行水並みの短時間入浴熱くて長湯は無理、女性は足湯を楽しみ、記念撮影して大満足。湯疲れしてなくて、源頭部まで標高差 500mの大滑走を楽しんだ。



小日向のコルまでのハイクアップをゆっくり焦らず頑張り、初体験の長走沢滑走を楽しんだ。林道近くになると沢の流れが出ている部分もあるが、問題なく林道まで滑走できた。累計標高差 1700m余りの変化に富んだ素晴らしい山スキーツアーであった。

5:45に猿倉をスタート、15:43フィナーレ。10時間にわたる大スケール・北アルプス山スキーツアーは満足度 200%と言っても過言ではない。残雪が多く、好天、事前の情報収集も十分行い、まさに「会心の山スキーツアー」であったといえます。

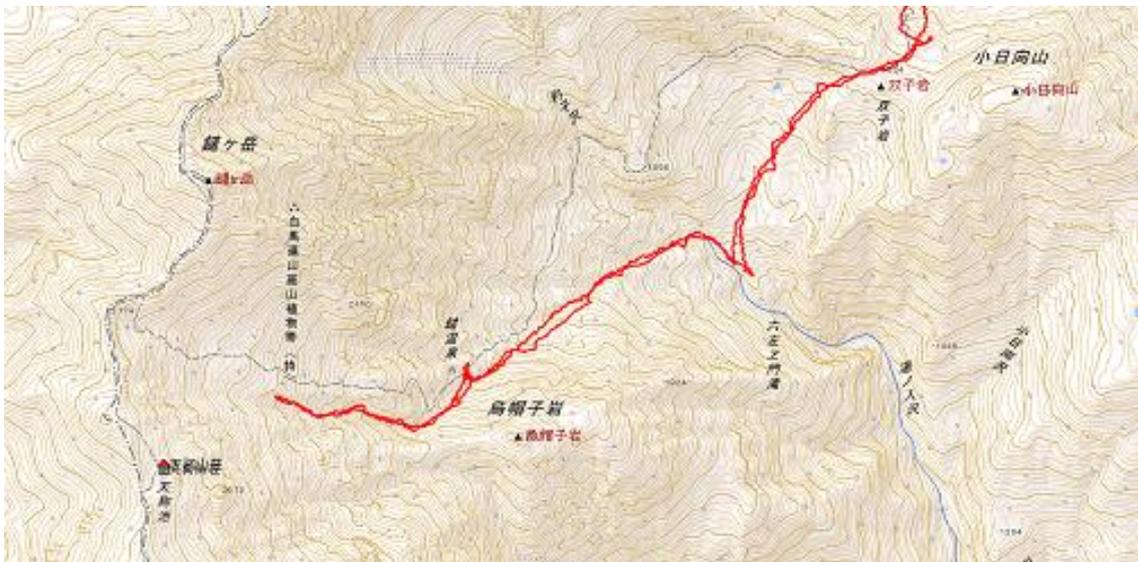


長走沢滑走 1



長走沢下部

GPSトラックです。



池田さんの感想文です。

目の前に広がる雄大な景色は、焼山北面台地以来の感動を感じました。更に温泉付きで忘れられない山行になったと思います。こういう景色の良いところはもっと時間があるとよいなといつも思いますけど、なかなか難しいですね。1700mを上がったことはこれからの山行に対して自身にもなりますし、富士山の良い練習になったと思います。

今日は、飛行機で富士山上空を飛びながら、これから別府温泉で疲れをとります。今日は須走は晴れていましたが、富士宮は曇っていました。

